

令和4年度 県立置賜農業高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標		1 心身ともに健康な、「元気」「活力」「勢い」を創り出す人間を育成する。 2 豊かな教養と主体的な学習習慣を身につけ、地域社会に貢献する人間を育成する。 3 勤労を尊び、進んで社会公共のために尽くす人間を育成する。 4 国際的な視野に立ち、日本国民としての自覚を持つ人間を育成する。
めざす生徒像		1 健康で自信に溢れ、何事にも主体的に励もうとする生徒。 2 生命を慈しみ、他者の存在を尊重する協調性を持ち、多様な価値観を受け入れられる生徒。 3 豊富な知識や技術を持ち、農業の担い手など幅広い分野での活躍を目指す生徒。 4 社会貢献意欲が高く、豊かな地域づくりに向けて進んで実践奉仕する生徒。
具体的目標		1 「いのちの教育」の推進と健全な心身の育成 2 確かな「学び」、個に応じた支援 3 地域と係わり、地域をつくる生徒を育てる学校づくり 4 生徒と向き合う時間の確保
達成度		A 達成 B 概ね達成 C やや不十分 D 不十分

自 己 評 価					
番号	評価項目	重点目標	具体的取組目標、方策・数値目標等	達成度	成果(○)と課題(▲) 次年度に向けた改善策等(◇)
1	「いのちの教育」の推進	① 多様な価値観を受け入れるしなやかな感性の育成。 ア 自尊・他尊感情を育む取組みを強化する。 イ いじめ〇(ゼロ)を目指し、いじめの防止や早期発見・早期解決に組織的に取り組む。 ウ 自主性・主体性を育む生徒会活動や農業クラブ活動を推進する。	ア 良好な人間関係づくり(保健講話) イ 生徒理解の充実(スクールカウンセリク、生徒理解研修会、各種調査) ウ リーダー講習会の実施(生徒会役員、農業クラブ役員) ◇全校出席率99% ◇いじめ解消率100% ◇学校行事満足度85p	B	○規範意識に係る指導が行き届いている。 ・生徒90p(87)、保護者84p(83) ○教育相談等丁寧な対応が概ね行き届いている。 ・生徒87p(83)、保護者87p(82) ○健康・食育に係る指導が概ね行き届いている。 ・生徒87p(84)、保護者85p(83) ○農業クラブ活動に係る生徒の意欲が向上した。 ・生徒80p(73)、保護者88p(86) ▲特別支援教育体制の充実を望む職員が多い。 ・教職員76p(79) ◇生徒理解や特別支援教育に係る研修機会の充実が必要。 ◇いじめ予防や解消について、保護者の理解を得るための一層丁寧な説明が必要。 ◇農業クラブ活動について、生徒が充実感を実感できる一層主体的な活動の推進が必要。
		② 社会を健全に生き抜くための規範意識の醸成。 ア 集団生活の中で社会のルールやマナーの大切さを学び、規範意識を育てる。 イ ネット社会における情報モラルの育成とトラブルの未然防止に組織的に取り組む。	ア 法令遵守の徹底(交通安全講話、各種法令に係る学習指導) イ SNS活用指導の徹底(情報モル講話) ◇自転車通学に係る違反「イエロー切符」年10件 ◇SNS関連トラブル0件		
		③ 心身の健康維持増進に向けた積極的な態度の育成。 ア 健康教育等を通して基本的生活習慣を確立させる。 イ 新型コロナウイルス感染予防、拡大防止に向けた生活指導、保健指導に組織的に取り組む。 ウ 教育相談を充実させ、個別最適に支援できる体制を確立する。 エ 特別支援教育の視点からの指導・対応について教員間で情報共有を図る。	ア 肥満傾向低減に向けた保健指導の推進(食育に係る授業、保健講話) イ 衛生管理の徹底(日々の健康観察、保健だより) ウ 校内研修の実施(各種面談、生徒理解研修会) エ 定期的な情報共有(蓬指導委員会) ◇「保健指導」満足度85p◇「教育相談」満足度85p ◇「特別支援教育」充実度85p		
2	「学び」の充実	① 学ぶ意義が可視化され、生徒が主体的に参加する授業の実践。 ア 生きる力の源となる学力の基礎・基本を定着させる。 イ 生徒の興味関心を喚起し、学びに向かう態度を育成する。	ア 基礎力強化教材の活用(観点別評価の充実、授業評価) イ 観点別評価の充実(評価に係る研修会、評価法の研究開発) ◇「学習支援」満足度85p ◇「授業満足度」全教科平均値85p	B	○農魚教育に係る実習が充実している。 ・生徒92p(91)、保護者91p(91) ○プロジェクト学習が充実している。 ・生徒90p(89)、保護者90p(87) ▲学習意欲の高い生徒も家庭学習が未定着。 ・生徒84p(84)、保護者66p(67) ▲一層の授業改善が望まれている。 ・生徒85p(82)、保護者79p(78) ▲職員の教科横断に係る意欲が低い。 ・職員63p(69p) ◇ICT活用など積極的な授業改善が一層必要。 ◇生徒の主体的な努力を促す課題や指導法の工夫が必要。 ◇「課題研究」を中核に据えた教科横断的な教育課程の編成が必要。
		②ICTの適切かつ効率的な活用と個別最適な学びの研究。 ア 農業の知識、技術等の学びを通し、高い志を持つ担い手を育成する。 イ 教育の情報化に対応し、授業改善やオンライン授業を積極的に推進する。	ア 地域課題解決型プロジェクト学習の推進(校内大会、教員の研究活動) ア 新技術・情報の積極的活用(ICT、AIなどスマート農業に関する授業) イ 一人一台端末の活用(授業改善、家庭学習支援) ◇「農業に係る学習」満足度85p ◇「授業満足度」全教科平均値85p		
		③ 実効的な対話機会を組み入れた学習活動の創造。 ア 読書活動を充実させ、豊かな心の育成を図る。 イ 学科横断的な探究型学習、主体的・対話的で深い学びを推進する。	ア 読書活動の推進(全校読書デー、図書委員会) イ コンビテンシーベースの教科横断的アプローチ(課題研究、教科横断的な授業) イ アクティブラーニングの実践(主体的・対話的・深い学びに向けた授業改善) ◇「プロジェクト学習」満足度85p ◇「教科横断的な学習」充実度85p		
3	「進路指導」の充実	① 高校での学びを生かせる、より適切な進路の検討と開拓。 ア 主権者意識を醸成し、地域や社会に関心を持たせる指導を推進する。 イ 地域活動への参画等を通して地域の魅力や課題の発見につなげる。	ア 社会情勢への関心向上(学級1新聞、主権者意識醸成講座) イ 地域貢献活動の推進(LHR活動の活用、全校一斉ボランティア) ◇「主権者教育」教員充実度85p ◇夏期休業中の社会貢献活動率100% ◇「ボランティアアンケート(県教委)」経験率70%	B	○進路に関する情報提供が行き届いている。 ・生徒87p(86)、保護者82p(78) ○職業観を高める機会が十分設けられている。 ・生徒89p(89)、保護者83p(81) ○進路相談等丁寧な進路指導が行われている。 ・生徒88p(87)、保護者83p(81) ○農業クラブ機関紙「萌芽」が充実している。 ・生徒88p(85)、保護者88p(86) ▲生徒の資格取得に対する意欲が低い。 ・生徒78p(73) ▲「農業技術検定」の合格率が低い。 ・1年生32.1%(全国63.5%) ▲職員の主権者教育に係る意欲が低い。 ・職員68p(73) ◇保護者に対する進路情報提供について、一層の工夫が必要。 ◇「農業技術検定」における生物生産科の合格率は全国程度であり、他学科の指導計画について再検討が必要。
		② 生徒の進路意識を段階的に高める計画的な指導の確立。 ア 学校を取り巻くネットワークを構築し、拡大・充実させる。 イ 計画的、組織的、系統的な進路指導を実践する。	ア 町・小中学校・NPO・先輩・企業等と連携(連携事業、町報の活用) イ 進路活動の充実(インターンシップ、キャリアパスポート) ◇「地域連携」満足度85p ◇「進路指導」満足度85p		
		③ 地域や産業界との連携を強化した望ましい勤労観と職業観の醸成。 ア 教育実践や研究の成果を積極的に還元する。 イ 学校の取組みを積極的に発信する。	ア 機関紙等の充実(農業クラブ機関紙「萌芽」) イ 農業教育への理解促進(オープンスクール、学校通信、HP、YouTube) ◇「各種機関紙」満足度85p ◇「置農チャンネル」配信月1回		
		④ 生徒のキャリア形成につながる十分な対話の確保。 ア 3年間の進路活動を見据えた丁寧な進路相談を行う。 イ 進学、就職に向けた意欲を喚起する。 ウ 協働的な組織体制を構築するとともに、適切な業務分担を図る。	ア 各種面談の充実(二者面談、三者面談、進路の手引き) イ 資格取得推進(資格に係る情報提供、農業技術検定) ウ 勤務時間と業務内容の管理(在校等時刻調査、部科長主任会) ◇農業技術検定合格率80% ◇複数月平均80時間以上0名		
4	「地域との協働による教育」の充実	① 社会の動向と本校の特色を運動させた持続的連携体制の確立。 ア 関係機関と情報を共有し、生徒が地域への興味関心を高める取組みを推進する。 イ 地域参画意欲向上を図るとともに、成人としてのリスク回避教育を充実させる。	ア 高等教育機関や関係機関、NPO等との連携(連携協働による授業・特別活動) イ 消費者教育等の充実(消費者教育、金融教育) ◇「地域理解教育」満足度85p ◇「主権者教育」教員充実度85p	A	○本校は地域から十分信頼されている。 ・生徒90p(87)、保護者90p(86) ○地域課題体感機会が概ね設けられている。 ・生徒87p(84)、保護者85p(83) ○長井市との協働による異文化交流や他校探究学習への協力など新規取組みを多数行った。 ▲ボランティア活動に積極的な生徒が少ない。 ・生徒81p(76)、 ◇川西町以外の教育活動等にも本校の特色や魅力を活かし、本校の存在意義向上を図る。
		② 地域交流の拠点となる学校づくり。 ア 生徒会活動等を通して小・中学校との連携を深める。 イ 学校の取組みを積極的に発信する。	ア 地域行事への参加(こまつ市出店、置農ファンクラブ) イ 保護者への広報(学年通信、進路便り、さくら連絡網) ◇「地域連携」満足度85p ◇学校見学者300名		

学校関係者評価	
◆意見・▲要望・◎評価等	
◎自分と他者双方を認める力の育成に努めており、全校出席率97.6%から生徒の高い「学校への帰属意識」が感じられる。 ◎いじめ防止等生徒の心身に直接関わる問題に対して十分対応されている。 ◎教育相談に関わる生徒と保護者の満足度が向上しており、高い信頼関係が感じられる。 東北大会に出場したことを高く評価したい。 ◎ホッケー部だけでなく、陸上競技部や演劇部が東北大会に出場したことを高く評価したい。 ◆昨今全国的な話題にもなっている「部活動の統廃合」について、令和6年度の学科改編前に早急に検討する必要がある。 ▲数値目標ばかりにとらわれることなく、職員個々が夢や希望を持って生徒を指導して欲しい。	
◎畜産施設全面改築の年に「全国和牛共進会」優等賞受賞したこと大変素晴らしい。 ◎複数校が探究学習のために本校の支援を仰ぐなど、本校教育力の高さが感じられる。 ◎町内関係機関等との関係性が強く感じられる。 ◆全ての分野で情報科が進む中、一人一台端末導入を契機に情報活用力を育成する必要がある。 ◆新聞やテレビで「経済ニュース」を見聞きする度「工業関連」が多いことに違和感を感じる。 ▲多くの国が穀物の輸出制限に向かう中、農業の担い手育成は国家的課題であり、生徒達に夢を抱かせるような農業教育に努めて欲しい。	